北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

札幌医科大学学術機関リポジトリ ikor
SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	香港理工大学との国際交流について
Author(s)	山口, 雅子; 坪田, 貞子; 片寄, 正樹; 乾, 公美
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要,第 13 号: 117-121
Issue Date	2011 年
DOI	10.15114/bshs.13.117
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6376
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	

・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

札幌医科大学保健医療学部紀要　第13号　117－121（2011）

香港理工大学との国際交流について

山口雅子[1)]、坪田貞子[2)]、片寄正樹[3)]、乾　公美[3)]
札幌医科大学保健医療学部
[1)] 看護学科
[2)] 作業療法学科
[3)] 理学療法学科

香港理工大学　Faculty of Health and Social Sciences（医療及社会科学院）と札幌医科大学は、国際交流覚書の締結を予定している。香港理工大学医療及社会科学院との覚書締結により、研究者の派遣事業が始まる予定である。本論文は、香港理工大学及び医療及社会科学院Department of Rehabilitation（康復治療科学系）の紹介、覚書締結までの推移、平成22年1月11日香港理工大学視察の概要について述べたものである。香港理工大学において、教員（研究者）派遣事業、学生間交流事業、テレビ回線を利用した2大学間のTV-Conference、アジア太平洋地域のリハビリテーション医学・医療に携わる研究者の国際会議の開催等について検討した。香港理工大学と国内他大学との学生交換留学制度の紹介とメディカルツーリズム参入について将来構想として私見を述べた。

キーワード：国際交流　香港理工大学
Faculty of Health and Social Sciences（医療及社会科学院）
Department of Rehabilitation（康復治療科学系）
札幌医科大学

The international collaboration between Sapporo Medical University and the Faculty of Health and Social Sciences, Hong Kong Polytechnic University

Masako YAMAGUCHI[1)], Sadako TSUBOTA[2)], Masaki KATAYOSE[3)], Kimiharu INUI[3)]

[1)] Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University
[2)] Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University
[3)] Department of Physical Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

Sapporo Medical University and the Faculty of Health and Social Sciences of the Hong Kong Polytechnic University are scheduled to sign a Memorandum of Understanding (hereafter MOU) to foster international collaboration and exchange of expertise in research education. The project for academic staff exchange and sharing of expertise will be commenced with the initiation of this MOU. This report summarizes the process of the transition to the MOU and provides an outline of the inspection visit to the Department of Rehabilitation Sciences of the Polytechnic University by the transition team on January 11, 2010.
The main discussion topics of both parties at the Polytechnic University included the exchange of academic staff and collaboration in research projects to share expertise, a student exchange program, utilization of video conferences for communication between the two universities, and the opening of an international conference for researchers who participate in rehabilitation medical care in the Asia-Pacific region and so on.
The exchange program to study abroad for domestic students of other universities in Japan is also introduced. Finally, a personal opinion about the entry strategy for medical tourism as a future concept is also discussed.

Key words：Faculty of Health and Social Sciences
international collaboration,
Department of Rehabilitation Sciences,
Hong Kong Polytechnic University,
Sapporo Medical University

Bull. Sch.Hlth.Sci.Sapporo Med. Univ 13:117-121(2011)

＜連絡先＞　山口雅子：〒060-8556　札幌市中央区南１条西17丁目　札幌医科大学保健医療学部看護学科

1．はじめに

札幌医科大学の理念に国際的・先端的な研究を進めることと明記されているように、国際化は大学の発展と役割に欠くことができないものである。近々、予定されている香港理工大学Faculty of Health and Social Sciences（医療及社会科学院）と札幌医科大学との国際交流覚書の締結は、両大学の研究・教育に良好な効果をもたらすものと考える。本論文は、香港理工大学と医療及社会科学院Department of Rehabilitation（康復治療科学系）の紹介と香港理工大学との国際交流について述べたものである。

2．香港理工科大学概要[1,2,3,4,5]

香港理工大学は、香港大学、香港中文大学に次ぐ香港第3番目の高等教育機関として、1972年に設立された。大学教育は国際的共通言語である英語でなされている。ビクトリアハーバーから徒歩10分の交通至便な所に位置している。

大学は、Faculty of Applies Science and Textiles(応用科学及紡織学院), Faculty of Business（工商管理学院), Faculty of Construction and Land Use,（建設及地政学院) Faculty of Engineering（工程学院), Faculty of Humanities（人文学院), Faculty of Health and Social Sciences（医療及社会科学院), School of Design（設計学院), School of Hotel and Tourism Management（酒店及旅遊業管理学院）からなり、理工系、社会科学系、人文学系等幅広い内容の教育を提供している。　学士（B.A.)、修士（M.A.)、博士（PhD.）課程を有し、学生数は約２万６千人（全日制１万人・夜間部１万６千人)、専任教員数は１千人を超えるマンモス総合大学であり、香港政府立の６大学中最大規模の大学である。香港理工大学は学術的レベルが高く諸外国と交流研究も活発である。

札幌医科大学が覚書締結を予定しているFaculty of Health and Social Science（医療及社会科学院）は、Department of Rehabilitation（康復治療科学系)、School of Nursing（護理学院)、Department of Applied Social Sciences（応用社会科学系)、Department of Health Technology and Informatics（医療科学及資訊学系)、School of Optometry（眼科視光学院）の５つの学系から構成されている。

康復治療科学系は、作業療法学科と理学療法学科からなり、香港理工大の中でも特に優秀な学生が学んでいる。香港理工大学の42の学系の全日制の学生中、作業療法学科は1位、理学療法学科は6位の学業成績である。護理学院で、看護教育がおこなわれている。

3．香港理工大学と札幌医科大との学術交流に向けての経緯

平成21年５月３日、香港理工大学の康復治療科学系、Cecilia Li-Tsang教授から学術交流の依頼があり、大学紹介DVDやパンフレットが送付された。平成21年５月13日、学部教授会で香港理工大学紹介DVDを視聴し意見交換がなされた。平成21年５月15日、学部国際交流部会で香港理工大学との協定について検討がなされ協定相手として申し分ないと結論が出された。平成21年５月25日、学部教授会に学部国際交流部会の結論を報告し教授会の了承を得る。平成21年11月25日、香港理工大学と札幌医科大学保健医療学部の学部間交流覚書締結に向けて、香港理工大学視察が承認される。平成22年１月11日香港理工大学視察。平成22年１月27日、学部教授会にて視察報告をする。学部間のMemorandum of Understanding for Collaboration and Exchange の締結に向けて学内調整を開始し、学部国際交流委員会で香港理工大学との覚書の締結について承認される。近日中に香港理工大学と覚書の締結の予定である。

4．香港理工大学訪問

平成22年１月９日～12日の日程で、乾公美保健医療学部長、坪田貞子作業療法学科長、片寄正樹理学療法学科教授、山口雅子看護学科教授が、香港理工大学を康復治療科学系における学部・大学院教育施設、カリキュラム等教育の実態を把握することと、香港理工大学康復治療科学系の教授との会議を通して、今後の交流のありかたについて具体的な意見交換を行う目的で訪問した。

香港理工大学の康復治療科学系長であるDr. Chetwyn Chan教授、Gabriel Ng教授、Cecilia Li-Tsang教授、Dr. Hector Tsang (OT Program leader)、Dr. Kwong (PT Program leader) と我々４名は協定締結にむけて双方が望む交流の形態、交流対象、交流内容等について協議した（写真１参照)。研究者（教員と大学院生を含む）の交流・共同研究を第一義に考えることとなった。アジア・太平洋地域で先進的な活動をしている両大学でリハビリテーション医療の組織や学会・研究組織を構築し、アジア太平洋地域の医療に貢献していきたいと抱負を述べあった。具体的な国際交流の内容の案は、教員（研究者）派遣事業、学生間交流事業、テレビ回線を利用した２大学間のTV-Conference、アジア太平洋地域のリハビリテーション医学・医療に携わる研究者の国際会議の開催等である。

康復治療科学系の学内の　1．火傷リハビリテーション研究室、2．西洋・東洋医学センター、3．認知神経科学研究所、4．スポーツトレーニング・リハビリテーション研究室、5.職能リハビリテーション研究室、6．リハビリテーション情報研究室、7．OT小児リハビリテーション研究室、

写真１
香港理工大学康復治療科学系の先生方と

8．OT機能訓練室、9．スポーツパフォーマンス教育研究室、10．心臓リハビリテーション研究室、11．神経心理学研究室、12.電気治療学研究室などを視察した。視察の詳細スケジュールは資料１に示した。

次に大学の付属施設について述べる。香港理工大学の康復治療科学系は、独自にRehabilitation Clinic（康復治療診所）を開業しており[6]、康復治療科学系の教員が管理している。康復治療診所を開業することで臨床と研究を一体化させている(写真２参照)。大学のスタッフと学生が質の高い理学療法と作業療法を提供している。康復治療診所では、頸部痛や背部痛治療、運動創傷、スポーツチームの支援、職場の健康支援、認知リハビリテーションサービス、鍼灸、脳卒中やパーキンソンなどの患者の支援を行っている。大学職員とその家族や学生だけでなく、誰でも利用できる。オリンピック強化選手などは、診療時間外の夕方や土曜日に対応している。

学生宿舎は、キャンパスから徒歩10分の距離にあり、3000人が学生生活を営んでいる。２人部屋と個室からなり、エアコン、冷蔵庫、インターネット、トイレ、シャワーが完備されている。共同施設としてフィットネスルームやコンピューター室が完備されており、ホテルのような住環境でとても快適に暮らせる。

写真２
康復治療科学系が運営する康復治療所

大学はホテル経営に着手しており、酒店及旅遊業管理学院が、2011年に262室からなるホテルを大学近くに開業する。ここでは、宿泊はもちろん、会議場やトレーニングセンターが完備されている。研究施設を始め、学生の教育実習の施設となる。学生の勉学には、実際のホテルで学ぶに勝るものはないとの考えからホテルの開業となった。今後、香港理工大学を訪問する時には、このホテルを利用することを勧められた。

康復治療科学系長であるDr.Chetwyn Chanや諸先生方とランチミーティングをおこなった。会場は、校舎の最上階に位置する海峡を隔て香港島が一望できる大変眺めの良い職員用のレストランで、食事内容も満足のいくものである(写真３参照)。学内レストランは、企業の人間と大学の教員が食事をしながら交流を図るためにも良く利用されている。学内レストランは、大学に外部の方を招いた場合、利便性が良く大変有益に利用でき、大学の校舎の建て替えにあたって、検討の価値はあると考える。

写真３
学内レストラン

香港理工大学は、教育関連施設、研究施設ともに充実しており、教員は教育、研究活動に専念できる環境が整えられている。外部資金を調達できた教員は研究スタッフを雇用し、研究をさらに発展させている。四川の大地震などの災害には香港赤十字社と共にいち早く救援にでたとのことである。北京オリンピック選手団の強化を始め一流のアスリートの強化にも尽力している。

視察を通じて感じたことは、資金面で充実していることである。これは研究者が企業と組んで競争的資金を獲得し、事業として研究を発展させているからである。これらを支援する組織が大学内に確立している。企業との結びつきが強く、企業経営者が大学に日常的に出入りし、講義を行ったり、企業の企画開発を大学と共同でおこなったりしている。技術の蓄積が少ない香港では、大学の研究室が企業の

ビジネスにとってもわが国よりも遥かに重要な地位を占めているように感じる。マーケッティングスタッフが海外との連携に関してすべて対応しているなど、教員が研究と教育に集中して取り組めるような体制が取られている。

大学の広報は、大変積極的になされている。学内に教員が著述した書籍、オリンピックや中国宇宙飛行への協力など、大学の社会貢献が学内・学外の人に一目でわかるように展示されている（写真４、５参照）。　学部紹介のDVDやパンフレットなど内容も充実し体裁も良い。大学のロゴ入りの名刺入れなどの洗練されたデザインのグッズが各種作られて学内で販売されている。

写真４
教員の著書の展示

写真５
オリンピックなどへの大学の社会貢献がわかる展示

５．香港理工大学と日本の他大学との学生交流

香港理工大学は、世界24カ国、200を超える大学と交換留学制度を持っている[4,7]。わが国では奈良女子大学と授業料を不徴収とする交換留学制度が確立している。奈良女子大学の学部生・大学院生は在籍したまま留学する場合（奈良女子大学には授業料を支払う必要がある）、香港理工大学には検定料、入学金、授業料を納める必要がない。留学期間は１年以内となっている。香港理工大学で取得した単位は、奈良女子大学の単位として認められるため、留年することなしに留学できる。この制度は、利用する人数に制限があり、語学の勉強を目的とするものではなく、専門の勉強や研究を目的とする者を対象としている。留学生は、奈良女子大学と香港理工大学との選考によって決定される。

奈良女子大学には国際交流基金派遣留学奨学金があり、10万円が年間10名程度に支給されている。また独立行政法人日本学生支援機構は、学生交流に関する協定等に基づき諸外国の大学に短期留学する学生を支援するため、短期派遣留学生として採用された学生には奨学金として月額8万円が支給される奨学金制度を設けている。麗澤大学や愛知淑徳大学とも交換留学制度がある。

香港理工大学には英語短期研修プログラムもあり、中部大学等が参加している。実用英語を身につけるためのプログラムで夏季休暇中3週間の日程で費用はおよそ18万円である。

６．香港理工大学と札幌医科大学の国際交流の今後

研究者の交流・共同研究として教員派遣事業が計画されている。その後、学生の語学研修、さらに交換留学制度の確立も検討されている。今回の締結は、医療及社会科学院と札幌医科大学との覚書であり、康復治療科学系だけでなく護理学院との交流も計画している。

将来構想として、メディカルツーリズム（医療旅行）への札幌医科大学の参入についての可能性である。国土交通省観光庁は、訪日外国人患者等の受け入れ体制の整備にあたって、「インバウンド医療観光に関する研究会」を開催し、日本政府は、長期治療目的で訪日する外国人向けに「医療ビザ」を新設する方向を打ち出している。富裕な外国人患者が日本の医療機関で治療、検診等を受ける目的で訪日旅行し、併せて国内観光を行う医療観光は、国際交流や国際貢献に役立ち地域の活性化に資するものと期待されている。徳島県では、県が糖尿病患者や旅行業者を対象とした糖尿検診と観光を組み込んだモニターツアーを開催した。大阪大学では、サウジアラビアの病院と協定を結び、平成22年10月より中東諸国の心臓病患者を年間30人程度受け入れ、最新の治療を提供すると報道もある[8]。

このような流れの中で、香港理工大学康復治療科学系の協力を得て、温泉保養地に診療所を開設し、リハビリテーションと療養、北海道の観光を合わせた医療旅行の提供の可能性である。香港、台湾、中国本土をはじめ全世界の華僑を対象に、中国語圏の人の欲する医療が提供できる。診療所は、臨床と研究、学生教育の場となる。香港理工大学では、研究者が企業と組んで、事業として研究を展開しており、見習うべき点は多い。香港理工大学との国際交流

の締結は、研究者、学生の交流に留まらず、地域活性化の可能性も含んだものと考えることができる。

参考資料：

1）Biannual Department Report 2009： The Polytechnic University Department of Rehabilitation Sciences,p1-13

2）Touching lives, making an impact 2009：The Polytechnic University Department of Rehabilitation Sciences,p1-23

3）Postgraduate Scheme in Rehabilitation Sciences

4）Impact summer/2009: The Hong Kong Polytechnic University Department of Rehabilitation Sciences,p1-23

5）The Hong Kong Polytechnic University<2010.9.24 アクセス>http://www.polyu.edu.hk/cpa/polyu/index.php

6）Rehabilitation Clinic：The Polytechnic University Department of Rehabilitation Sciences

7）奈良女子大学国際交流留学情報<2010.9.24 アクセス>http://www.nara-wu.ac.jp/iec/kokusai/agreements.html

8）2010年９月８日　読売新聞